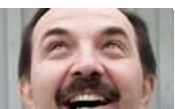


HP IceWall SSO

HP IceWall技術レポート:ポータルソリューション特集(1)

<p>6ヶ月で初期投資回収、 初年度に初期投資2.5倍の コスト削減効果!! 企業情報ポータルと シングルサインオンが導く勝利</p>	
<p>»EIPとは »会社を唸らせるROI »ここで驚きの事例@hpプロジェクトのご紹介を »コスト削減の影の立役者“シングルサインオン” »HP IceWall SSOでパワーアップしたポータルソリューションに »HP IceWall SSO付属のダイナミックメニューポータルで始めませんか?</p>	

EIP(Enterprise Information Portal)とは

“EIP:Enterprise Information Portal”という言葉をご存知ですか？
日本語で「企業情報ポータル」という意味を持つ“EIP”とは、すなわち、企業内、時に企業外に存在する膨大なデータやアプリケーションの中から、ユーザが必要な情報に瞬時かつ快適にアクセスすることを可能にする仕組みです。

■ EIPが注目されるその理由は…

理由その1: 必要な情報にたどり着くまでの時間が長い！またはたどり着けない！
多くの企業で各種業務システムが並立し、膨大な情報が散在していることにより、目的の情報を検索し、たどり着くまでに膨大な時間がかかっているという状況が起こっています。

理由その2: Web化をしても結局使いづらく生産性が向上しない！
イントラネットで使用する様々なアプリケーションを利用しようとしても、それぞれ別々のユーザインタフェースが使用されているために何度も同じ情報の入力を求められたり、別々のユーザ認証システムを所持しているために、利用する度に別々のユーザIDとパスワードの入力が求められたり、快適で素早いアクセスからは程遠い現状があります。

このように、情報システムに投資を続けているにも関わらず、蓄積した情報資産とそれを利用するナレッジワーカーの時間が有効活用されていない現状は、企業にとっても大きな損失です。

こうした背景のもとに、業務の生産性向上、コスト削減実現を目的として、近年、多くの企業で注目されているソリューションが、企業情報ポータル(EIP)なのです。

会社を唸らせるROI

ではなぜ、今まで多くの企業がEIPの導入に踏み込めなかったのでしょうか？
企業情報ポータル導入により、情報が集中化され、その情報をWeb経由で取得できるようになると、蓄積した情報資産から、ユーザが必要な時に必要な情報を取り出せるという利便性が増えます。
しかし、多くの企業では、その利便性を理解しつづも実際の導入には踏み切れずにいます。

この経済不況の中で、こうした情報システムに対するROI(Return On Investment)、つまり投資対効果が全く不明であった。これが、経営サイドがゴーサインを出せない最大の要因だったのではないのでしょうか？
では、もし運用開始から半年で投資を回収、初年度に初期投資の2.5倍ものコスト削減効果が得られるとしたらどうでしょうか？

ここで驚きの事例 @hpプロジェクトのご紹介を

ここに、ROI分析によって、非常に大きなコスト削減を実行し、ポータルソリューション導入の成功をおさめた事例をご紹介します。我々HPの社内において、行った社内情報ポータルプロジェクト、“@hpプロジェクト”です。
このプロジェクトでは、32%の予算削減や、セルフサービスによる40%の経費削減、HRコールセンターへの問い合わせ件数削減、HR委員の削減等を目標とし、最終的に\$20M(約24億円)の投資に対し、運用開始後6ヶ月で投資を回収。ポータル開始初年度ですでに\$50M(約60億円)のコスト削減を実現しました。

■ @hpプロジェクトは何を実現したのか？

このように、大規模なコスト削減に成功した@hpプロジェクトでは、プロジェクト開始当初、次のような要件を掲げていました。

- 大きな改善成果の達成
- USだけでなく、グローバルでのプロセス統一
- 方針や情報の集権化
- 100% Paperless/Self Service
- 個人別のメニュー
- シングルサインオン

中でも、2本の柱となったのが“セルフサービス”と“シングルサインオン”です。

コスト削減の影の立役者 “シングルサインオン”

Webによる情報提供やセルフサービス導入により、直間比率を改善してコスト削減を実現する際、情報の所在がわからない、ログイン・パスワードを何度も入力、自分の使用権限があるサービスか不明、ユーザ管理が重複、手間がかかる業務量などが発生すると、結局間接部門に対する問い合わせや作業依頼が来てしまい、コスト削減は期待できません。

EIPに一度ログインすれば、日々の業務に利用するアプリケーションに対して再度ログインする必要がなく、ユーザは、ポータルにアクセスするだけで、日常の全ての業務をこなすことができる。また、使用頻度の高いコンテンツを個々のユーザごとに表示したり、使用が許可されていないアプリケーションや情報は最初から表示させないようにしたりできれば、ポータルの利便性はさらに高まります。

これらを実現する影の立役者が“シングルサインオン”なのです。

HP IceWall SSOでパワーアップしたポータルソリューションに

この“シングルサインオン”と、“個人別のメニュー表示”という2つの要件を実現するための機能を提供したEIPソリューション。実は既に、色々と存在します。

各種ポータルソリューションとHP IceWall SSO、なぜポータルツールとは別にHP IceWall SSOをSSOツールとして立てることに意味があるのだろうか？とお思いでしょう。

まずこの2つのソリューションを組み合わせることで、

1. ポータルに、強固かつ柔軟なセキュリティレベルを提供することができます
HP IceWall SSOは、都銀インターネットバンクで使用された実績を持つセキュリティレベルを確保します。バッファオーバーフローやクロスサイトスクリプティング等も一ヶ所でシャットアウト。社外からのインターネット利用に対して、セキュリティを高めたいお客様に最適です。
2. EIPツール付属のSSOではさばき切れないトランザクションにも対応
セキュリティ部分のトランザクションをSSOソリューションが担うことで、ポータルのパフォーマンス維持にも貢献
3. シェアNo.1のHP IceWall SSOでEIPに必要な機能も簡単に実現
シングルサインオン機能や、アクセスコントロールなども、HP IceWall SSOの機能を活用することで、ポータル内シングルサインオンや、個人別メニュー表示などを簡易に実現することが可能です。

HP IceWall SSO付属のダイナミックメニューポータルを始めませんか？

このように、ポータルにSSOソリューションを組み合わせる事によって生み出されるいくつかのメリットを踏まえ、日本市場でシェアNo.1 SSOソリューションである、日本ヒューレット・パッカートのセキュリティソリューション、“HP IceWall SSO”でも多様な機能を備えたポータルソリューション、“HP IceWall SSOダイナミックメニューポータル”を標準でバンドルしています。

“HP IceWall SSO ダイナミックメニューポータル”では、多くの実績を持つSSOソリューション、“HP IceWall SSO”と一緒に使用することで、バックエンドへのSSOや、ユーザ別のメニュー表示に焦点を当てた、非常にシンプルな構成を実現しました。

また、“HP IceWall SSO”の柔軟かつ強固なセキュリティ機能をそのまま利用できるため、その他のポータルソリューションに比べ、非常に柔軟でセキュリティレベルの高いシステム構築が可能だという点があげられます。Windowsドメインとの統合認証や、クライアント証明書認証、ICカードによる認証など、様々なセキュリティオプションの導入も可能です。

企業間の“合併”や、“統合”といった過程を踏まえ、社内システムをもう一度見直し、新規に構築しなければならないといった現状を抱える企業が少なくない今、先進性だけで、ポータルソリューション導入を考えるだけでなく、本当に必要なポータルソリューションとはどういうものなのか、“EIP”という言葉の意味を再考していただきながら、検討していただくことをおすすめ致します。

HPのノウハウを皆様へ。

デモ、コンサルティングサービスもご用意しております。お気軽にお問い合わせください。

2003.7.24 日本ヒューレット・パッカート コンサルティング事業部テクニカルコンサルタント 染井さやか

●関連技術レポート

- ▶ ポータルソリューション特集(1) - 6ヶ月で初期投資回収、初年度に初期投資2.5倍のコスト削減効果！企業情報ポータルとシングルサインオンが導く勝利(本トピックス)
- ▶ ポータルソリューション特集(2) - N2 PortalとHP IceWall SSOで実現する業務効率の高いセキュアなシステム環境